

# 光といのち

第122号  
2020年1月1日発行

発行所  
真宗大谷派勝善寺  
〒299-2214

千葉県南房総市二部1344  
電話 0470-57-2657  
FAX 0470-57-2290

メール info@syozenji.or.jp  
URL http://syozenji.or.jp/  
住職 釋孝昌(井上孝昌)

## 謹賀新年

題字下は、「真宗宗歌」二番の後半部分です。

「六字のみ名」は南無阿弥陀仏、「世のなりわい」は生活のための仕事、「いそしむ」は頑張ることです。

ここに、私たち真宗門徒の生活が端的に表現されています。この念仏申す生活は具体的に、礼拝の生活・聞法の生活・正信の生活です。

このことについて一月二日(木)十時からの修正会しゆしやうえで、お話しします。念珠と門徒章を持ち、お参りください。

なお、新年の挨拶と護持金の受付は本堂内です。

六字ろくじのみ名なを  
となえつつ  
世よのなりわいに  
いそしまん

報恩講の時は、「おめでとうございませう」なんですよ。

十年近く前ですが、北海道のお寺の報恩講で初めてお話しするご縁をいただいた時のことです。北海道(第五組)では、二昼夜三日間の報恩講が勤まっています。ですから、寺によって違いはありますが、初速夜からご満座まで、法話も七、八座あるんです。そして、ご満座を終えますと、本堂であれば私が立っているあたりに講師と参勤法中が参詣席に向かって座るのです。客殿(客間)で行われている場合もありましたが、同様に講師と参勤法中が並ぶのです。すると、住職、坊守、責任役員、総代、世話方、そしてご門徒さんが向き合って座ります。

初めてこの光景に遇った折にはとても感動しました。真宗寺院が聞法道場であることも、報恩講の為に真宗寺院が存在することも全てが凝縮された作法です。

そもそもお寺で「おめでとうございませう」なんて、似つかわしくない気がする方もおられるでしょ。それほどにお寺の本来性を勘違いしているのです。

今日お参りの方々の中には、先日台風15号に被災されて「おめでたい」なんてとても言えない方もきつとおられましょう。厳しい状況の中で、勝善寺様の報恩講が今お勤まりになっているのですね。

持ち前の幸福と不幸のモノサシに立てば絶対に「おめでたい」と言えない、思えない時だからこそ、そのモノサシ自体を翻してください。教えに出会い直す場としての報恩講をお勤めすることこそ、真実に「おめでたい」と言える世界があるのです。

「御礼言上」の起源や伝統については知りませんが、豪雪や凶作、あるいは戦争の最中にもずっと相続されてきたに違いありません。人間のモノサシの意味づけを破られる意味で、「おめでとうございませう」と申しあげたことです。



百々海 眞師

南無阿弥陀仏 南無阿弥陀仏  
もしみおしえにあわざれば  
生まれしこともむなしけれ。  
もしよきひとにあわざれば  
今日のよろこびしらざらん。  
南無阿弥陀仏 南無阿弥陀仏

## 「驚き・発見・出立」

この言葉は、仏法に出遇うとは、私の上にどういふ世界が開かれることなのかを簡潔に教えて下さっている林暁宇先生の仰せです。

『出(で)遇(あ)いには、まず「驚き」があります。今まで夢にも思っただことのないようなことに出遇った驚きです。そんなことはわかっていたとか、知っていたということではなく、まったくの驚き。「驚き」と同時に「発見」。目が覚める。そして同時にそこから「出立」。出発。発心(ほっしん)。

「ああそうか、これでわかった」で終わるなら出遇いとはいえない。新しい歩み、人生が、そこから始まる。こういうことが備わったものを「出遇い」というのです。(林 暁宇 『君は君の願いに生きていけ』35頁)

出遇いは「驚き」なのです。何も見えていなかった自分に「驚き」、もとの景色が見えてくる「発見」です。それは自分のものの見方、考へ方から解放される「出立」です。

地に足が着くのです。「驚き」「発見」「出立」は、一念同時の出来事です。それが出遇いの内実なのです。

具体的には、私の思いを破って下さる教えの言葉、根源的には「南無阿弥陀仏」であり、親鸞聖人であれば「よきひとのおおせ」、法然上人の仰せとの出遇いでした。私以上に私を見抜いている智慧の言葉に言い当てられる「驚き」です。

仏教は言葉の宗教です。が私たちは「言葉不要の宗教感覚」を民族性として共有しています。大いなるものへの埋没感情や夕陽を眺めた感動です。それはそれで結構ですが、仏教は一時的な癒しや清々しい心境を与える救いではなく、真実の道理への目覚めを救いとする教えなのです。

「浄土真宗」とは、「浄土こそ真(まこと)の宗(むね)」という教えを指す言葉です。単なる組織名・教団名ではありません。「宗(むね)」は、身体でいえば胸、建物では棟木です。胸は心臓ですから、心臓が壊れたら人間は命を終えます。棟木が倒れば、建物は建物ではなくなり、宗は「要」、全生活

の中心点を意味します。親鸞聖人は「浄土こそ真の宗」だといわれるのです。

では、私たちは何を「宗」、全生活の中心に据えているのか。

「浄土」ではなく、自分の思い、自分のモノサシを「宗」として、信じて疑われないのが今日の私です。いわば「自分教」の熱心な信者なのです。

しかも「宗」として自分のモノサシが正確かどうかは、そのモノサシ自身では確かめようがないのです。

先日、結婚披露宴に招かれました。十余りの宴会場を有する新宿の有名ホテルが会場でした。が、秋の婚礼シーズンの週末なのに、空いていました。当日は台風の荒天。

「キャンセル続出でガラガラなの？」と係に尋ねたら、「今日は「仏滅」なので、ご予約が少ないのです」との返事でした。科学万能の令和時代になっても、「日柄」に左右される方が多いですね。ビックリしました。

誰もが幸せな結婚を願うのは当然です。非難する資格は誰にもありません。が「大安」に挙式すると、順風満帆な結婚生活が保証されるのでしょうか？

「日柄」選びは、些細な話では決してありません。何故ならば、結

婚式だけでなく、重要な契約、引越、着工など、人生の節目を「日柄」に託すのですから。まさに「日柄宗」の熱心な信者です。私もスマホに依存している「スマホ宗」なのかもしれません。「ウチは代々浄土真宗」と言いながら、お互いに何宗なのでしょうね。

上から目線で「日柄」を選んでは大ダメージと言っているのではありません。ですが「日柄」を重要視するモノサシは、確かなのでしょうか？実は如来の智慧によって、自分のモノサシを吟味されることが聞法なのです。これまでは当たり前だと思っていたこと、問題にならなかつたことが問題として見えてくる「発見」の歩みです。実は「真宗」に遇うとは、「真宗でないものを宗としていた！」と知らされることなのです。

先程の黒川様の感話では、「かん違いから始まった」と聞かせていただきました。大事な一点です。真宗に出遇うとは、正解を覚えることではなく、「かん違い」を「かん違い」と知らされる一瞬の「驚き」です。しかも、一度わかって終わりではない。念仏によって呼び覚まされ続けねばならない私だった！と破られ続けていく道なのです。



渡邊 秀子

私は四年前に主人が亡くなったご縁で、今日までお世話に

当初は、主人に会いたい一心で泣いてばかりいました。「このままではいけない。本当に苦しいだけだ」と兼にもすがる思いで聞法会やその他の行事に進んで参加するようしていました。

そこでは、今まで聞いたこともないお話しに「あつ、そうだったんだ」と気づかされ、「これからどう生きて行ったらいいんだろうか」と思っていた私には、大変有り難く大切な教えとの出遇いがありました。

例えば、仏教は「煩惱は棄てなさい」「自分を律して生きなさい」「教えのとおり努力すれば救われる」と説いていると思っていました。ところが、ここで聞く話しは真逆で、「煩惱は私たちに具わっているもの。捨てたくても捨てられない。その中でしか生きられない。煩惱を抱え持っている私たちを阿弥陀様は救って



黒川 敦子

私ども黒川の墓は、神戸にございます。ただ年を重ねるにしたがって神戸がだんだんと遠く

なつてまいりました。できればこちらの方に墓を設けたいと思ひ、お墓を設けるにあたっては、黒川の当主、現在愛知県に住んでおりますけれど、当主の方に話しを通しておいたほうが良いのではないかということになりました。それで話しを通すにあたっては、同じ宗派ならば文句も言われまいし反対もされないとの思惑からこちら勝善寺様へお世話になった次第です。

大変お恥ずかしい話しなんです。が、当時主人も私も仏教に全く関心がなく知識もなかったわけで、自分の家の宗派が何宗だったかということすらよくわかつておりませんでした。

こちら様に五年ほど前に門徒としてお引き受けいただいたのですけれども、それから二、三か月後ほどしてから主人が突然「黒川家は浄土真宗ではなく浄土宗なんだ」と申したんですね。で私は困り

まして、もちろんビックリもしたのですけれども、今更勝善寺様へ宗派が違うので門徒をやめますとも言えず「言うのですのならあなたが言ってきたくださいよ」と主人に申したところ、主人も気が進まなかったのだと思います。で、申しますには「あいつも(当主)も若くないしパレルころにはボケているか、ひよっとしたら土の下に入っているかもしれないからこのままいよう」ということで、そのまま現在に至っております。

このようなわけで勝善寺様のご縁を持った経緯は、浄土真宗の教えに感銘を受けたからとか心をうごかされたからとかではなく、まつたくの勘違いから始まりました。

この五年間いろいろ法話を聞いてまいりました。当初は便宜的に門徒になったものでお寺さんにもあまり足を運びませんでした。が、お話しを聞いていくうちに様々なことに気づかされております。

主人は私にいろいろなことを教えそして与えてくれました。その中で最大の遺産は、物ではなく勝善寺様を通した浄土真宗であったのではないかと思っています。

くださっている。そのことに気づいていく教えなんだ」ということや、「他の命をいただいて生きていくことや、人間に生まれたことは大変意味あることで、それは「唯一人間だけが仏教を学べるからだ」ということ、「阿弥陀様は、煩惱まみれの私たちが救いたいと願われ、その願いがすでに成就されたのだから、私たちは如来の本願の中にあり、すでに救われている」ということなど、たくさんのことを教えていただきました。

そして、今までの自分とはまったく違う自分を感じたこともありました。

それは、阿弥陀様から差し出された手は、私を絶対にお捨てになることはない。私は、たくさんの人達のご縁をいただいて生かされている。という自分を感じたのです。

その時から阿弥陀様は、いつもいつしよに居てくださります。迷ったり悲しんだりした時は側で一一緒に泣いてくださいます。

私のこれからの人生の歩みは全て如来からのお導きなんだと、あきらめず、気負わず、頂いたご縁なんだと思ひ一日一日を大切に生きていきたいと思っています。

報 恩 講 を 担 っ た ご 門 徒

お名前の敬称は、略させていただきます  
お磨き

池田千代枝 川名登支江  
川名信之 川名喜昭 久保賢祐  
黒川敦子 鈴木正一郎 田中昭一  
富澤眞知子 鱸居政男 中山郁夫  
能重美恵子 蓮沼美栄 蓮沼典子  
長谷川吉枝 正木道雄 吉田誠  
吉本しづ子 渡邊秀子 坊守 住職



11月13日(水)  
お磨き

会場設営など準備  
青木敏夫 明石義久 足達 崇  
川名利幸 川名喜昭 田中昭一  
田村徹夫 田村晋一 能重 薫  
能重 隆 坊守 住職



11月15日(金) 紫幕張

十一月十六日(土)

司会進行役 田中昭一

受付・誘導係

足達 崇 大胡祐子 川名せつ子

高梨維夫 堀海榮子 姫松 実

前田瑞枝

御懇志係

大胡登美子 田村晋一 渡邊秀子

駐車場係

明石圭司 石井俊幸 狩野昌也

重田和夫 田中誠 田村徹夫

富永昇一 中山明夫 能重初雄

三堀 清

お齋(食事)係

田中仁子 西尾義枝 三堀洋子  
慰労会進行役 高梨 真一



11月16日(土) 日中法要前  
受付・誘導係 御懇志係

速夜(十一月十五日十五時〜)と晨朝(同十六日六時十五分〜)と日中(同十六日十時〜)の法要に延べ百三十名ほどがお参りくださいました。

また、百六十六名の方々から合計八十五万七千円の御懇志が寄せられました。剰余金、四十万六千九百九十円は、ご門徒の研究、仏具購入・境内整備などに

充てさせていただきます。

2020年の当番地区は、検儀谷・二部下・平群となります。平群今まで二部検儀谷以外の富山地区に属していましたが、改めました。

十一月二十(金)二十一(土)が報恩講です。それに向けて、「六字のみ名をとなえつつ 世のなりわいにいそしまん」。

ご予約ください

月曜日朝のお勤め 6時15分〜

1月2日10時〜 修正会

1月8日9時〜 八日講十日講

1月21日13時〜 親鸞教室

1月26〜28日 教区報恩講

2月9日14時〜 同朋の会

3月20日10時〜 春彼岸会

4月5日13時30分〜 花まつり

4月10日13時〜 親鸞教室

5月10日14時〜 同朋の会

5月21日13時半〜 中佐久間講

6月3日13時〜 教区同朋大会

6月4日13時半〜 組婦人研修会

6月7日9時〜 八日講十日講

6月14日14時〜 勝善寺聞法会

6月17日13時〜 親鸞教室

6月23日13時〜 真宗門徒の集

6月28日8時30分〜 奉仕作業

6月30日13時〜 組同朋総会

※：以外は当寺が会場です。